



(2) 市立学校を取り巻く現状及び課題

イ 各種教育上の課題

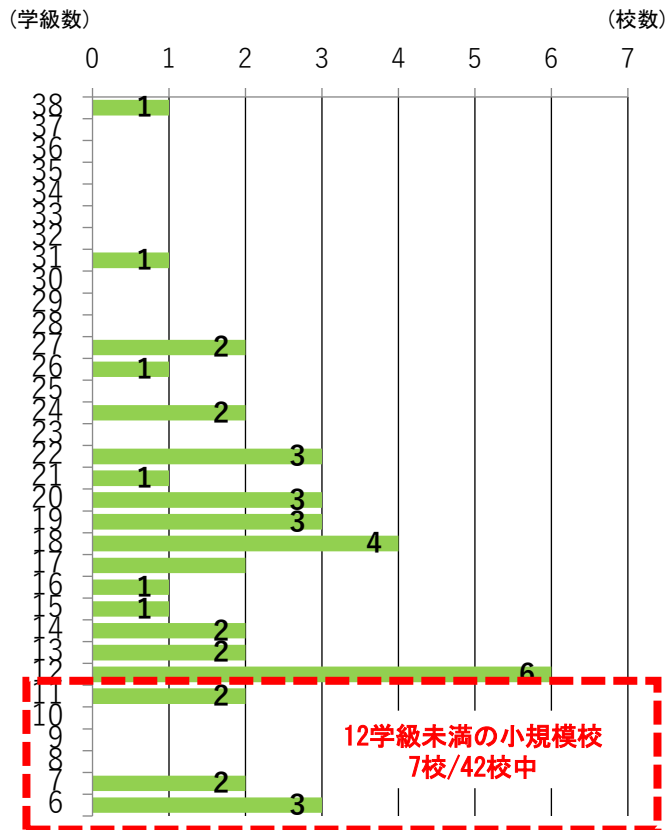
- ⑤ 学校の規模により生じる変化について
- ⑥ いじめについて
- ⑦ 柏市学力・学習状況調査の結果について
- ⑧ 子どもの居場所について
- ⑨ 市立柏高等学校について

前回：① 不登校児童生徒への支援について ② 特別支援教育について ③ 教職員について ④ 学区の不整合について

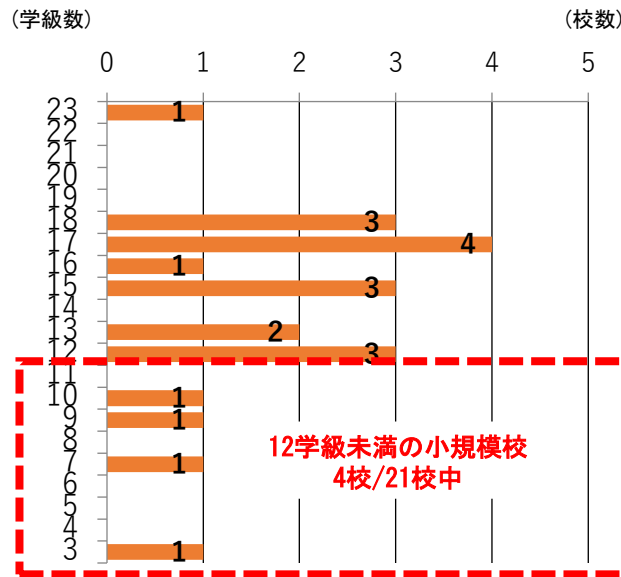
⑤-1 学校の規模により生じる変化



学級数別の小学校数



学級数別の中学校数



柏市立小中学校は、地域により
学校規模も様々

⇒大規模な学校と小規模な学校
が混在

10年、20年、30年と時間の経過
とともに、大幅に小規模な学校
が増加する見込み

? 学校の規模により
どんな変化が?

※小・中学校ともに令和5年5月1日時点の学級数（特別支援学級は含まない）

⑤-2 学校の規模により生じる変化



※文部科学省「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き（平成27年1月27日）」を基に作成

過小規模校（6学級/校以下）・小規模校（7～11学級/校以下）

【事象】

- ◆ 全ての学年または一部の学年でクラス替えができない
- ◆ クラス同士が切磋琢磨する教育活動がしにくい
- ◆ クラブ活動や部活動の種類が限定されやすい
- ◆ 全体の教職員数が少ない
- ◆ 進学等の際に大きな集団への適応に困難をきたす可能性がある
- ◆ 複式学級で運営する可能性がある



【考慮の必要な視点】

子ども

- クラス内で男女比の偏りが生じやすい
- 多様な価値観に触れることが困難になりやすい
- 集団の中で自己主張したり、他者を尊重する経験を積みにくく、社会性やコミュニケーション能力が身につきにくい
- 児童生徒の人間関係や相互の評価が固定化しやすい
- 特定の子どもの問題行動にクラス全体が影響を受けやすい

学校行事

- 運動会等の集団活動や行事の教育効果が確保しにくい
- 一人あたりの保護者の負担が大きくなりやすい

授業

- 班活動やグループ活動に制約が生じやすい
- 協働的な学習で取り上げる課題に制約が生じやすい
- 教科等が得意な子供の考えにクラス全体が引っ張られやすい

教職員

- 教職員と児童生徒との心理的な距離が近くなりやすい
- 1人あたりの校務事務の負担が大きくなりやすい
- 経験年数や専門性等バランスのとれた教職員配置やそれらを生かした指導の充実に困難になりやすい

➡ 人間関係の固定化や多様な価値観に触れにくい等、児童生徒の教育環境として課題が多い

【市内の6学級以下の学校の様子】

授業の様子



行事やグループ活動の様子



出典：柏市立学校HP

【市内の7～11学級以下の学校の様子】

授業の様子



行事やグループ活動の様子



出典：柏市立学校HP

⑤-3 学校の規模により生じる変化



※文部科学省「公立小学校・中学校の適正規模・適正配置等に関する手引き（平成27年1月27日）」を基に作成

標準規模校（12～24学級/校以下）・大規模校（25学級/校以上）

【事象】

- ◆ 全ての学年で人間関係や男女比等に配慮したクラス替えを行うことができる
- ◆ クラス同士が切磋琢磨する教育活動を実施することができる
- ◆ クラブ活動や部活動の種類や活動内容の選択肢が増える
- ◆ 全体の教職員数が増える
- ◆ 進学等の際に集団への適応に困難を伴わない
- ◆ 児童生徒数・学級数に見合った施設が整備されない場合、学校運営に支障をきたす可能性がある



【大規模校における考慮の必要な視点】

学校施設

- 児童生徒数及び学級数に見合った校舎や運動場等の学校施設を整備する必要がある

授業

- 特別教室や体育館等を利用する場合における授業の割り当てにかかる調整が必要

学校行事

- 児童生徒一人ひとりが活躍する機会が得られるよう、行事の内容や構成を工夫
- 異学年交流の機会を意識的に設定

教職員

- 教員組織として子ども一人ひとりの個性や行動を把握できるよう、**教職員間の連携が必要**
- 校長のマネジメントのもと、全ての教職員が共通理解を図れるよう工夫



ポイントは「**必要な学校施設の整備**」

一方で、**多様な価値観の共有、切磋琢磨した教育活動、教員の組織対応などメリットも多い**

【市内の12～24学級以下の学校の様子】

授業の様子



行事やグループ活動の様子



出典：柏市内学校HP

【市内の25学級以上の学校の様子】

授業の様子



行事やグループ活動の様子



出典：柏市内学校HP

⑥-1 いじめについて



■ いじめの定義

児童生徒に対して、当該児童生徒が在籍する学校に在籍している等当該児童生徒と**一定の人的関係のある他の児童生徒が行う心理的又は物理的な影響を与える行為**（インターネットを通じて行われるものを含む。）であって、**当該行為の対象となった児童生徒が心身の苦痛を感じているもの**

■ 解消の確認のポイント

心理的または物理的影響が止んでいる状態が3ヵ月継続している。また、心身の苦痛を感じていない

R4年度末いじめ未解消状況（R5 3/31現在）

	児童生徒数	R4年度いじめ認知件数	解消	未解消	解消率
小学校	22,018	3,624	2,415	1,209	66.6%
中学校	10,459	515	381	134	74.0%
高等学校	890	18	13	5	72.2%



R4年度末いじめ未解消追跡調査（R5 8/31現在）

	児童生徒数	R4年度いじめ認知件数	解消	未解消	解消率
小学校	22,018	3,624	3,575	49	98.6%
中学校	10,459	515	508	7	98.6%
高等学校	890	18	13	5	72.2%

出典：柏市教育委員会調べ

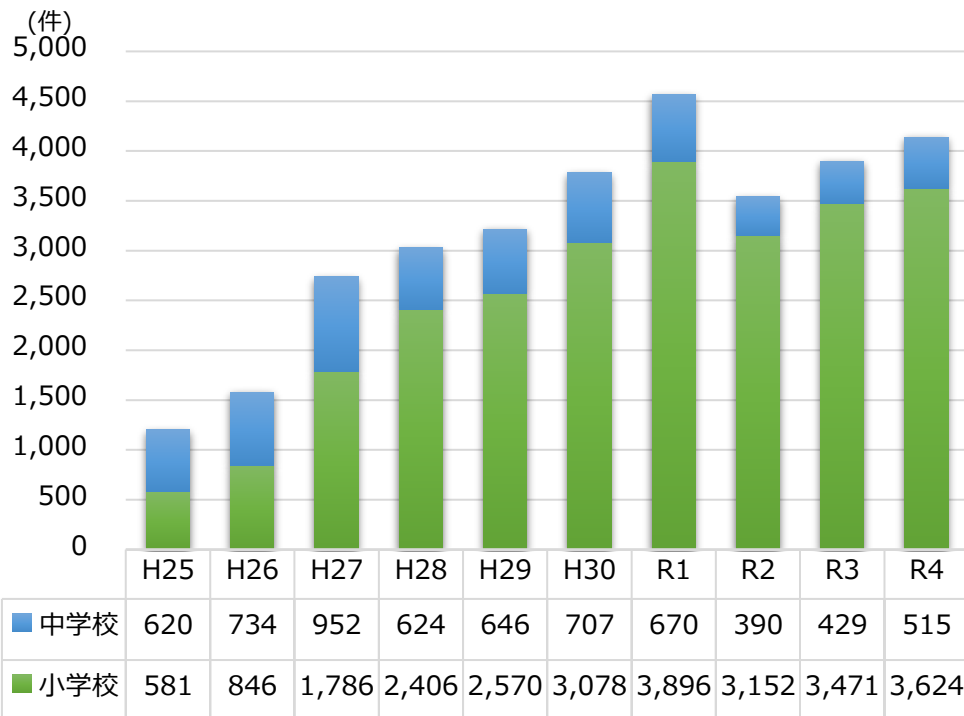


図 市内小・中学校のいじめの認知件数 出典：柏市教育委員会調べ

- 全体的には、いじめの認知件数は上昇傾向にあるが、解消率は高い。
- 柏市では、未解消のいじめ案件について、追跡調査を継続的に実施している。

⑥-2 いじめへの取り組みの状況



■ いじめの未然防止

- ・啓発
いじめ防止・人権教育に係る出前授業，情報モラル教育啓発講演，いじめ防止サミット，リーフレット配布等
- ・人的配置
スクールカウンセラー，スクールソーシャルワーカー，スクールロイヤー，学級経営アドバイザー，スクールサポーター等
- ・協議会・研修
いじめ問題対策連絡協議会，生徒指導主任連絡協議会，人権教育担当者研修

■ いじめ早期発見・早期対応

- ・いじめ状況調査（年間3回 市教育委員会）
- ・匿名報告・相談プラットフォーム『STANDBY』
- ・心の健康観察『シャボテンログ』
- ・チームでの指導体制の充実

■ いじめへの対応

- ・柏市いじめ防止基本方針（令和5年改訂）



出典：柏市教育委員会HP



⑦-1 柏市学力・学習状況調査の結果について（教科）

■令和4年度調査結果（市内学校の平均値）

国語	教科総合	基礎	応用
小1	▽	▽	▽
小2	≒	≒	≒
小3	▽	▽	≒
小4	≒	≒	▽
小5	≒	≒	▽
小6	≒	≒	▼
中1	≒	≒	≒
中2	≒	≒	≒

算数・数学	教科総合	基礎	応用
小1	▼	▽	▼
小2	▽	▽	≒
小3	▽	▽	▼
小4	▽	▽	▼
小5	≒	≒	≒
小6	≒	≒	≒
中1	○	○	≒
中2	○	○	≒

理科	教科総合	基礎	応用
中1	≒	≒	≒
中2	≒	≒	≒

英語	教科総合	基礎	応用
中1	○	○	◎
中2	○	○	○

出典：柏市教育委員会調べ

<評価基準>

記号	意味	全国値との差
◎	上回る	4.0以上
○	やや上回る	2.1 ~ 3.9
≒	ほぼ同等	-2 ~ 2
▽	やや下回る	-3.9 ~ -2.1
▼	下回る	-4.0以下

- 中学生の数学と英語が全国値を上回る項目が多い。
- 小学校4年生までの算数で全国値を下回る項目が多く、小学校5年生までの国語でも下回る項目がある。

⑦-2 国語及び算数・数学の結果（平成26年度～令和3年度）



■ 調査結果（教科総合・平均値） ※R2は新型コロナウイルス感染症による休校に伴う授業時間数確保のため実施なし

国語	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R3
小2	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒
小3	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒
小4	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒
小5	○	○	○	○	○	○	≒
小6	≒	○	≒	≒	≒	≒	▽
中1	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒
中2	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒
中3	≒	≒	≒	≒	≒	≒	○
算数・数学	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R3
小2	○	≒	≒	≒	≒	≒	≒
小3	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒
小4	○	○	○	≒	○	○	≒
小5	○	○	○	○	○	○	≒
小6	≒	○	≒	○	≒	≒	≒
中1	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒
中2	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒
中3	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒

<評価基準>

- ：全国値を上回っている
- ≒：同程度
- ▽：全国値を下回っている

- 国語は、小学校5年生が全国値を上回る年が多い。
- 算数は、小学校4、5年生が全国値を上回る年が多い。
- 両教科とも、直近2年は下がり基調が見られる。

⑦-3 社会・理科・英語の結果（平成26年度～令和3年度）



■ 調査結果（教科総合・平均値）

社会	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R3
小5	—	—	—	—	≒	—	—
小6	—	≒	≒	≒	≒	≒	—
中1	—	≒	≒	≒	≒	≒	≒
中2	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒
中3	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒
理科	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R3
小6	—	≒	≒	≒	≒	≒	—
中1	—	≒	≒	≒	≒	≒	≒
中2	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒
中3	≒	≒	≒	≒	≒	≒	≒
英語	H26	H27	H28	H29	H30	R元	R3
中2	≒	≒	≒	○	○	○	≒
中3	≒	≒	≒	○	○	○	≒

<評価基準>

- ：全国値を上回っている
- ≒：同程度
- ▽：全国値を下回っている

- 社会科や理科は、全国値と同程度。
- 英語は、平成29年度から3年間、全国値を上回った。

⑦-4 柏市学力・学習状況調査の結果について（4C）



表 子どもたちに身に付けさせたい4つの力（柏市教育振興計画）

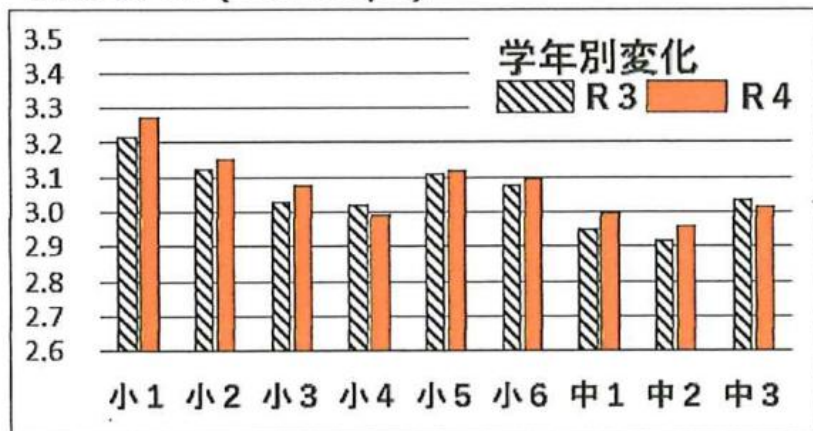
4つの力（C）	見出し	項目
見通す力 (Concept)	夢・目標	将来の夢や目標を持つことができる。
	計画	物事に取り組むときに、計画を立てることができる。
	振り返り	学んだ結果、よく分かったこと、あまり分からなかったことを整理することができる。
	分かる努力	分からなかったことを友達や先生に聞いたり、調べたりすることができる。
	改善	物事に取り組んだ時に、どうすればもっと良くできるか考えることができる。
挑戦する力 (Challenge)	目標への努力	夢や目標に向かって、近づくための努力をすることができる。
	粘り強さ	諦めずに粘り強く取り組むことができる。
	挑戦	失敗を恐れずに挑戦することができる。
関わり合う力 (Communication)	相手の立場立って考える力	自分が相手の立場だったら、どう思うかと想像することができる。
	思いやり	誰に対しても、温かい心で接することができる。
	伝える力	友達に自分の考え・意見を説明することができる。
	傾聴	話し合い活動の際に、他人の意見を最後まで聞くことができる。
	相談する力	悩んでいることや心配していることを、先生、友達、保護者などに相談することができる。
	協働	自分だけでは解決できない問題について、友達や先生の助けを求めて、一緒に取り組むことができる。
	地域との関わり	自分が学んだことを、自分が住んでいる地域や社会の問題解決に役立てようとするすることができる。
自立する力 (Control)	主体性	課題に自ら取り組むことができる。
	自己肯定感	自分の長所・短所を含め、自分自身を認めることができる。
	規範意識	ルールが必要となる理由や、なぜ守らなければいけないかを考えることができる。

⑦-5 柏市学力・学習状況調査の結果について（4C）

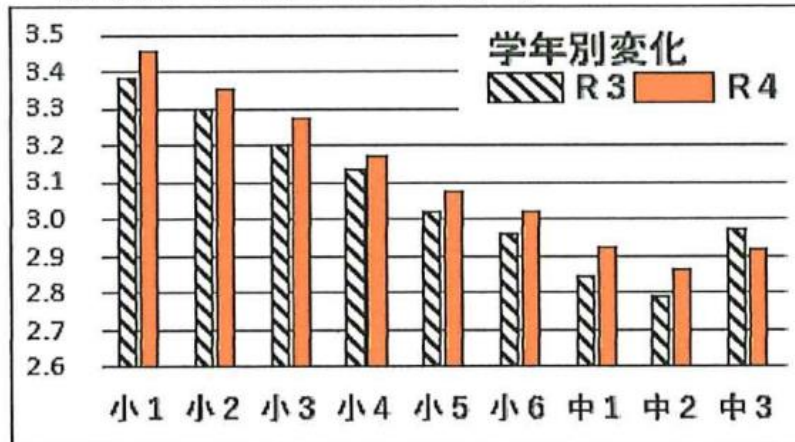


■調査結果（令和3年度と4年度の比較）

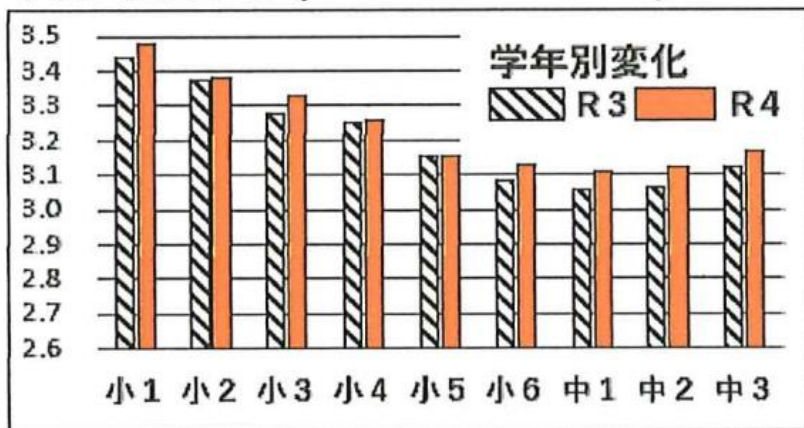
見通す力(Concept)



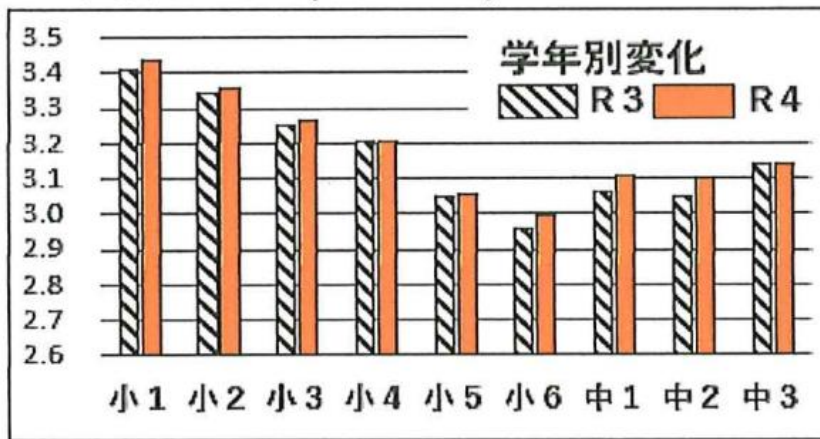
挑戦する力(Challenge)



関わり合う力(Communication)



自律する力(Control)



出典：柏市教育委員会調べ

- **見通す力**は小1・小5～6が高く、中1～2が低い。 **挑戦する力**は小1が高く、中2が低い。
- **関わり合う力**は小1が高く、小6～中2が低い。 **自律する力**は小1が高く、小6が最も低い。
- 多くの項目で、令和3年度と比較すると、令和4年度の数値が高い。

⑧-1 子どもの居場所について【背景・必要性・取り組み】



背景・必要性

- 国の見解 **非行防止、健やかな成長のため、居場所は必要**
- 日本の若者は自己肯定感、意欲が低い傾向。居場所が多いほど、自己肯定感が高い。
- 部活動の地域移行で土日の行き場が不足。**放課後格差**が顕在化（子どもの相対的貧困率 11.5%）

下校後、子どもが孤立している可能性

取り組み

（1）児童センターでの中高生の居場所事業（H17～）

- ①しこだ児童センターで実施（R4利用状況 計22人）
- ②豊四季台児童センターで実施（R4利用状況 計222人）

（2）かしわ地域若者サポートステーション（H21～）

- ①15歳から49歳までを対象に就労支援を実施（R4新規登録者176人、就労決定者65人）

（3）学習支援事業

- ①小中学生コース（小学4年生～中学2年生、計85人利用）
▶内容：生活習慣、意欲、コミュニケーション能力等基礎的能力の向上を図る学習の土台づくりを中心に支援
- ②中高生等コース（中学3年生～高校3年生、計178人利用）
▶内容：「小中学生コース」での土台を生かした学力向上を中心に支援
- ③対象は、生活保護、児童扶養手当、就学援助、ひとり親家庭等医療費等女性、遺児等養育手当のいずれかを受給する世帯の児童・生徒

（4）学習スペース事業

- ①パレット柏（座席数84席 ※平日夕方、休日は満席。高校生の利用が目立つ。）
- ②ラコルタ柏（R5利用登録者数 1,215人 ※R4平均利用人数(実績)：平日は16人、土日等は25人）

（5）放課後子ども教室

- ①平日における補充学習（H19～）
▶小学校2～3年生を中心に週1階程度、令和元年度より全校実施（現在、平日開催は40/42校）
- ②居場所型への移行準備として、夏休み期間に地域連携でのモデル事業を数校で実施（R4～）
今後複数年をかけて、『放課後子ども教室（居場所型）』を全校で実施
- ③夏休み子ども教室
▶民間団体や高校等と連携して講座を実施（R5 58講座955人受講）

（仮称）柏市子ども・子育て支援複合施設

旧そごうアネックス館にて、子どもが成長に合わせて利用できる子ども・子育て施設を来春に開設予定。

<主な機能>

送迎保育ステーション、妊娠子育て相談、こども図書スペース、乳幼児一時預かり、遊びの広場、中高生世代の居場所



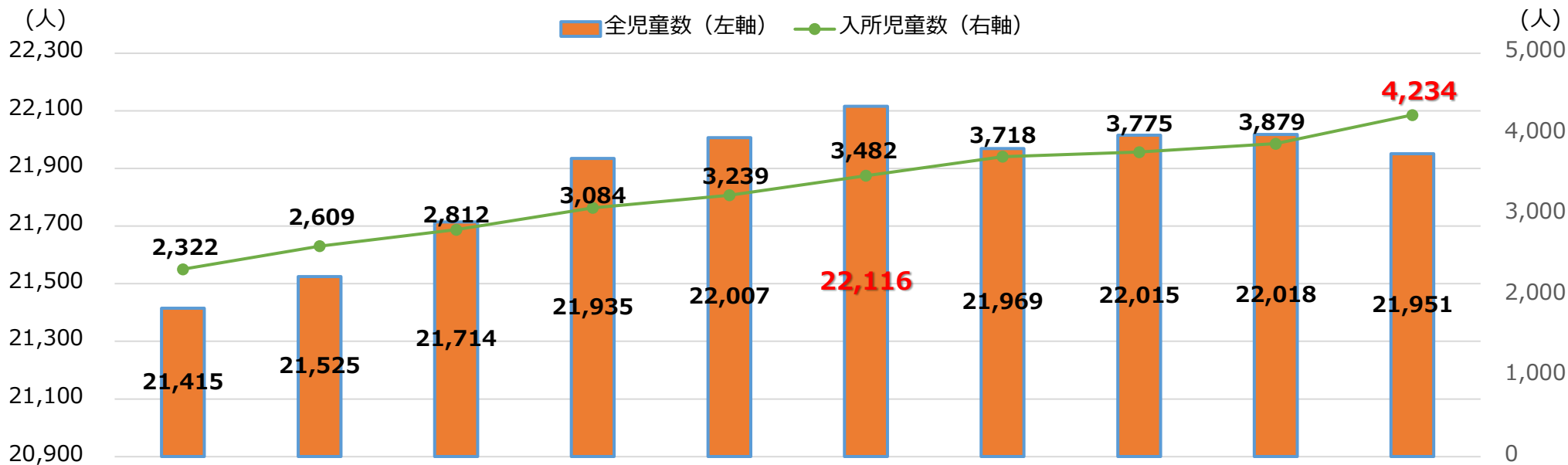
図 パレット柏オープンスペース

⑧-2 子どもの居場所について【こどもルーム】



■ こどもルーム

保護者が共に働いているなどの理由で、昼間帰宅しても保育する人がいない小学1年生から6年生までの児童をお預かりして、児童が安心して過ごせるよう見守るとともに、適切な遊びや生活の場を提供し、児童の健全な育成を図るための施設。



	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
利用率	10.8%	12.1%	13.0%	14.1%	14.7%	15.7%	16.9%	17.1%	17.6%	19.3%
入所 保留者数	35	24	61	57	52	36	23	22	40	40

出典：柏市学童保育課調べ（各年5月1日現在）

- 市内の児童数は横ばい傾向にあるが、**こどもルームの利用率は増加傾向**にある。
- こどもルームが増加することで、学校の教室数が不足する場合がある。

⑨-1 市立柏高等学校の概要



■ 創立 昭和53年4月

■ 校訓 「清く やさしく より高く」 (平成6年4月1日制定)

■ 育てたい生徒像

- ・課題を乗り越え、生涯にわたり学ぶ意欲を持ち続ける生徒
- ・主体的に考え行動する力を持ち、社会人として自立できる生徒
- ・自他の違いを認め、共生する心と資質をもった生徒
- ・地域社会に貢献する意欲を持ち、将来の地域を支える力を持った生徒

■ 柏市立柏高等学校 第三次教育計画 (令和4年)

- 1 地域と支え合うキャリア教育の推進
- 2 豊かな学びを支える教育環境の充実
- 3 地域と歩み続ける部活動

■ 生徒数・学級数 (令和5年5月1日時点)

課程	全 日 制						計		
	普 通 科			ス ポ ー ツ 科 学 科					
学科	男	女	計	男	女	計	男	女	計
1 年	165	116	281	25	15	40	190	131	321
学級数			8			1			9
2 年	179	100	279	20	17	37	199	117	316
学級数			9			1			10
3 年	145	71	216	27	11	38	172	82	254
学級数			9			1			10
合 計	489	287	776	72	43	115	561	330	891
学級数			26			3			29

■ 所在地 柏市船戸山高野325番地の1

❖ 開校の背景 ❖

当時市内には県立高校が3校しかなく、増え続ける子どもの数に対応するという市民の期待と要望があった。

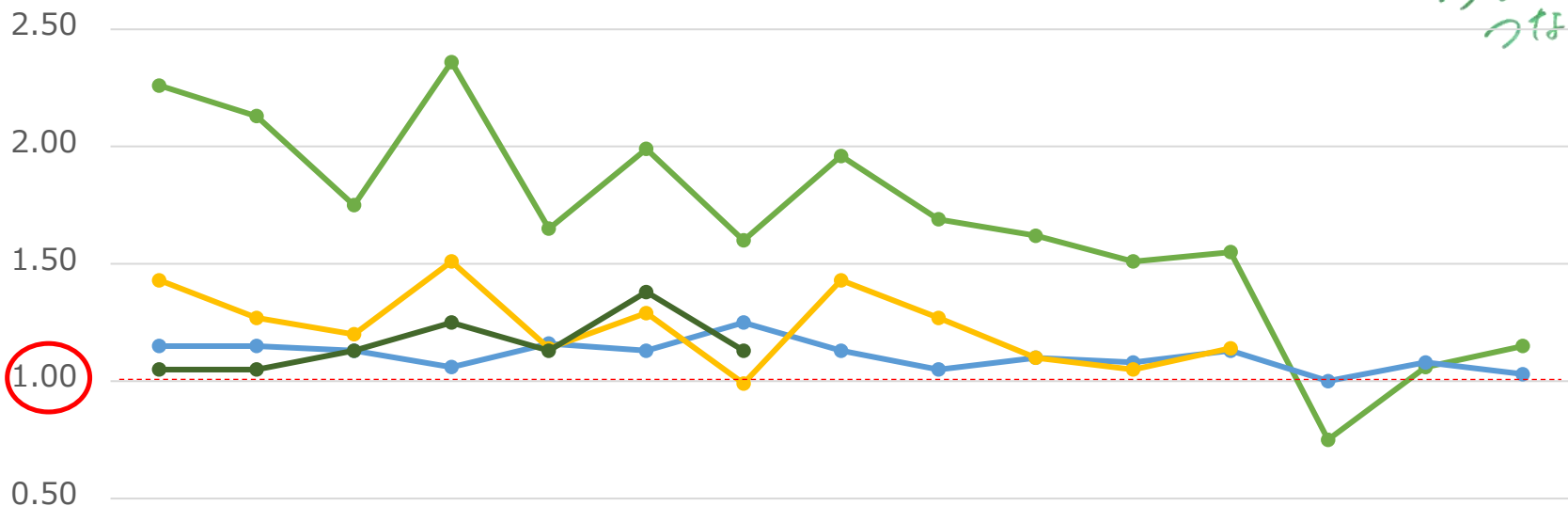


図 第三次教育計画の方向性



図 校章

⑨-2 柏市立柏高等学校の入学選抜志願者の状況（推移）



	H21	H22	H23	H24	H25	H26	H27	H28	H29	H30	R1	R2	R3	R4	R5
● 普通科(前期)	2.26	2.13	1.75	2.36	1.65	1.99	1.60	1.96	1.69	1.62	1.51	1.55	0.75	1.06	1.15
● スポーツ科学科(前期)	1.15	1.15	1.13	1.06	1.16	1.13	1.25	1.13	1.05	1.10	1.08	1.13	1.00	1.08	1.03
● 普通科(後期)	1.43	1.27	1.20	1.51	1.14	1.29	0.99	1.43	1.27	1.10	1.05	1.14	—	—	—
● スポーツ科学科(後期)	1.05	1.05	1.13	1.25	1.13	1.38	1.13	—	—	—	—	—	—	—	—

※前期：H21～22特色，H23～R2前期，R3～5一般

後期：H21～22学力，H23～R2後期

- 普通科は、志願者が減少傾向にあったが、近年は増加傾向にある。スポーツ科学科は横ばい傾向にある。
- 令和5年度入試は、昨年度同様**私立高校への人気**が継続する中、千葉県北西部の公立学校では定員割れが多数に及んだ。その状況の中で、**市立柏高校は定員割れを免れ、定員を確保**できた。

⑨-3 県内の市立高等学校の概要



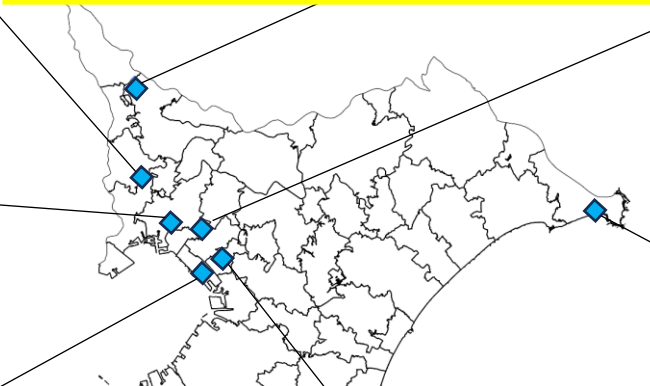
■千葉県内の市立高等学校は7校

学校名	市立松戸高等学校
学科 生徒数	普通科：837人 国際人文科：119人
学校の 特色	普通科は、単位制カリキュラムを実施。国際人文科は、英語力を伸ばす取組みとして、少人数授業、充実した語学学習、ICTを活用した教育を実施している
アクセス	東松戸駅より徒歩13分

学校名	市立船橋高等学校
学科 生徒数	普通科：715人 商業科：238人 体育科：238人
学校の 特色	進路希望に応じた多様な選択科目を設置（単位制の導入）。進学コースと国際コースを設置し、進路希望の実現、語学学習に特化した教育を実施している。
アクセス	東船橋駅より徒歩8分

学校名	市立稲毛高等学校
学科 生徒数	普通科：744人 国際教養科：119人
学校の 特色	令和4年4月千葉県内の公立学校として初めてとなる中等教育学校を開校。「グローバルリーダー」を目指すため、英語授業では、①全学年で少人数制クラス展開、②本校教諭と外国人教師によるティームティーチングを実施している。
アクセス	稲毛海岸駅より徒歩15分

学校名	市立柏高等学校
学科 生徒数	普通科：776人 ※令和5年の生徒数 スポーツ科学科：115人
学校の 特色	運動部、文化部を問わず、多数の部が毎年、関東大会、全国大会へ出場。また、国際交流活動をとおして、異文化理解教育と語学研修の充実につなげている。
アクセス	柏たなか駅よりバス7分



学校名	市立千葉高等学校
学科 生徒数	普通科：840人 理数科：119人
学校の 特色	単位制高校。多様な選択科目を設定し、レベルの高い授業ときめ細かな進路指導を行っている。令和4年度から「スーパーサイエンスハイスクール」の第Ⅳ期の基礎枠の研究指定を受けている。
アクセス	稲毛駅より徒歩15分

学校名	市立習志野高等学校
学科 生徒数	普通科：712人 商業科：239人
学校の 特色	「1.きめ細かい学習指導、進路指導、2.部活動を軸とした学校づくり、3.市民から応援される学校」を実施している。また、多くの運動系部活動は全国大会で優勝している。
アクセス	実籾駅より徒歩10分

学校名	市立銚子高等学校
学科 生徒数	普通科：773人 理数科：84人
学校の 特色	単位制の導入により、多様な選択科目を選択が可能。苦手科目を克服しやる気を育てるため、毎月、英語・漢字・古文の小テストを実施。全室エアコン完備し、学習と部活動をサポート。
アクセス	銚子駅より徒歩20分

※市立柏高等学校以外の生徒数は、
令和4年5月1日現在

出典：各学校HP
千葉県HP「令和4年版教育便覧」
「令和4年千葉県統計年鑑」

⑨-4 県内の市立高等学校の状況



■ 千葉県内における市立高等学校の倍率の推移

高校名	学科名	偏差値	R2前期	R2後期	R3	R4	R5
千葉	普通科	71	2.70	1.98	1.49	1.58	1.71
	理数科	73	2.70	2.40	1.50	1.50	1.73
稲毛	普通科	67	2.16	1.69	1.41	1.38	1.32
	国際教養科	66	2.03	2.10	1.23	1.78	0.98
習志野	普通科	56	1.72	1.14	1.11	1.27	1.10
	商業科	50	1.78	2.00	1.33	1.38	1.25
船橋	普通科	52	1.84	1.59	1.00	1.27	1.28
	商業科	47	1.93	—	1.18	1.31	1.43
	体育科	43	1.01	—	1.05	1.09	1.08
松戸	普通科	49	2.53	1.64	1.23	1.44	1.65
	国際人文科	53	1.85	—	1.23	1.13	1.28
柏	普通科	48	1.55	1.21	0.76	1.06	1.15
	スポーツ科学科	43	1.13	—	1.00	1.08	1.03
銚子	普通科・理数科	データなし	1.60	0.95	0.97	1.06	0.97

定員割れ

倍率は低い
が、近年は
増加傾向

定員割れ

■ 市立柏高等学校における学科の変遷

学科名	開設年	廃止年
普通科	昭和53年4月 (開校年)	—
国際科	平成4年4月	平成23年3月
スポーツ科学科	平成10年4月	—

出典：市立柏高等学校HP

■ 市立松戸高等学校における学科の変遷

学科名	開設年	廃止年
普通科	昭和50年4月 (開校年)	—
国際人文科	平成11年4月	—

出典：市立松戸高等学校HP

「—」：募集なし ※令和3年度で入学試験制度変更

出典：千葉県HP「一般入学者選抜等の志願者確定数
(特別入学者選抜及び地域連携アクティブスクールの入学者選抜を含む)」

➡ 前年度より増加
 ➡ 前年度より減少
 ➡ 前年度と同じ
 偏差値出典：みんなの高校情報千葉

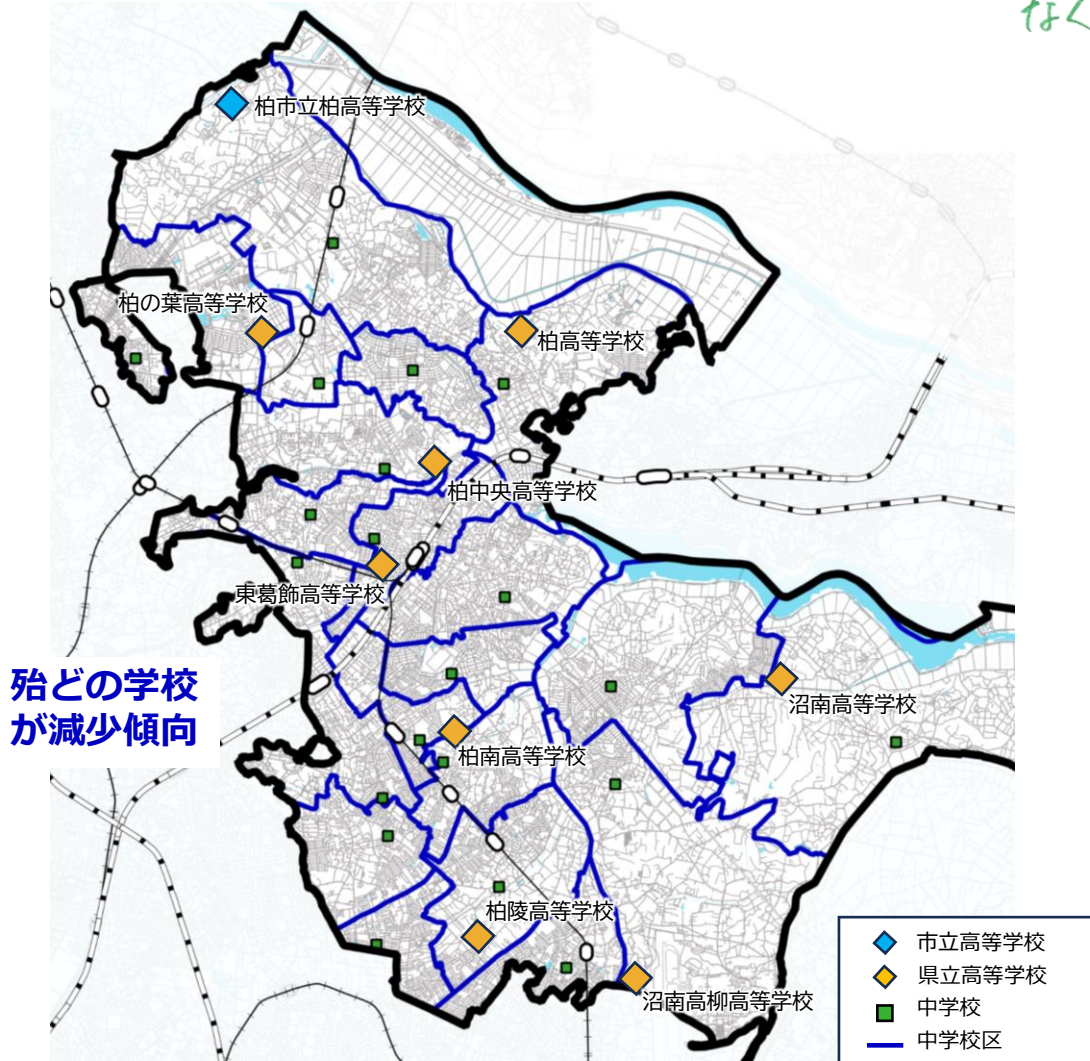
⑨-5 市内の県立高等学校の状況



■ 柏市内における県立高等学校の倍率の推移（全8校）

高校名	学科名	偏差値	R2 前期	R2 後期	R3	R4	R5
東葛飾	普通科	71	3.01	2.46	1.82	1.86	2.00
柏	普通科	66	2.27	1.70	1.31	1.42	1.32
	理数科	67	1.68	1.00	1.78	1.58	1.15
柏南	普通科	58	2.54	2.00	1.50	1.47	1.43
柏陵	普通科	49	1.92	1.37	1.22	1.03	1.15
柏の葉	普通科	57	2.99	1.94	1.60	1.35	1.74
	情報理数科	54	2.23	—	1.88	1.73	1.48
柏中央	普通科	58	1.77	1.46	1.24	1.36	1.16
沼南	普通科	40	0.83	0.99	0.67	0.36	0.36
沼南高柳	普通科	39	1.74	1.27	0.80	0.83	0.81

■ 柏市内における県立高等学校の配置状況



「—」：募集なし ※令和3年度で入学試験制度変更
 出典：千葉県HP「一般入学者選抜等の志願者確定数
 （特別入学者選抜及び地域連携アクティブスクールの入学者選抜を含む）」

※平成19年4月に千葉県立柏北高等学校と柏西高等学校が統合し、千葉県立柏の葉高等学校が誕生。

➡ 前年度より増加
 ➡ 前年度より減少
 ➡ 前年度と同じ
 偏差値出典：みんなの高校情報千葉



くも
ほく

【まとめ】市立学校を取り巻く現状及び課題

項目	現状及び課題（要旨）
① 児童生徒数の推移	■ 現在32,486人，20年後15%減少，40年後32%減少
② 学校規模の現状と今後の見込み	■ 地域により規模の差がある，北部1地区(柏たなか,西原)以外は減少見込み
③ 学校施設の老朽化	■ 全体的に校舎や給食室の老朽化が進行，維持管理費増加
④ 通学路の安全	■ 通学距離に差がある，3km以上の距離を通う小学生がいる
⑤ 不登校児童生徒への支援	■ 不登校児童生徒は増加傾向，SSW(※)相談件数も増加 ※SSW=スクール・ソーシャル・ワーカー
⑥ 特別支援教育	■ 特別支援学級在籍児童生徒は増加傾向
⑦ 教職員の多忙化	■ 教員不足，教職員の若年化，超過勤務も課題が残る
⑧ 学区の不整合	■ 複数の中学校区をまたがる小学校区は6校
⑨ 学校の規模により生じる変化	■ 規模ごとに課題が異なる，小規模校で特に課題が見られる
⑩ いじめ	■ 全体的に増加傾向だが，解消率も高い
⑪ 柏市学力・学習状況調査の結果	■ 近年，全国値を下回る教科が小学校を中心にみられる
⑫ 子どもの居場所	■ こどもルームの利用者は増加傾向，中高生の居場所拡大
⑬ 市立柏高等学校	■ 私立高校志向で倍率は低下傾向，更なる魅力が求められる
⑭ その他	■ 子どものケアなど福祉的な役割が増加 ■ 公立夜間中学の設置要望がある